

## 1 目的

- ・ 体験活動を取り入れた学習を積極的に進め、心豊かな児童を育てます。
- ・ 地域の人材や教材を活用したり、外部の専門家による授業を行ったりして、様々な立場の方とふれあうことで、幅の広い学習活動を行うとともに、コミュニケーション能力を高めます。
- ・ 児童が楽しい学校生活を送ることができるよう、児童の実態を客観的につかみ、それに応じた学級指導を行うための職員の力量向上を図ります。

## 2 内容

### (1) 体験活動の充実

地域の方々の協力を得て、味噌づくり工場の見学（3年生）や七宝焼制作（4年生）、田植え・稲刈り（5・6年生）等、地域教材を活用した多様な体験活動を行いました。

### (2) 外部機関の活用

一つ一つの言葉の大切さについて学ぶ「ハッピートーク」（5年生）や、自分の将来について考える「ドリームマップ」（4年生）等、ゲストティーチャーによる専門家ならではの授業を行いました。また、己書の製作を、講師の先生を招いて、3年生から6年生までの児童を対象に行いました。筆で自分の世界観を表現することの楽しさを味わい、上手に書くということより、自由に表現することを第一に置いた取り組みだったため、どの児童も意欲的に自信をもって作品を作り上げることができていました。



【講師の先生から学ぶ己書の製作】

### (3) 指導力の向上

校内教職員研修として、愛知教育大学の磯部征尊（まさたか）先生をお招きし、プログラミング教育や学習評価についての研修を深めました。思考・判断・表現を育成するポイントについて具体的に学ぶことで、日々の学級・授業づくりの充実に生かすことができました。

## 3 評価

- ・ 伝統的な産業の体験や農業体験を通して、児童の郷土に対する関心を高め、理解を深めることができました。また、将来の地域を担う人材としての自覚を高め、学習意欲の向上を図ることができました。
- ・ 外部講師による専門的な授業は、児童の知的好奇心を高め、視野を広げることへつながりました。特に己書の取り組みでは、講師の先生の筆で自分の世界観を表現することの楽しさを味わうことができました。上手に書くということより、自由に表現することを第一に置いた取り組みだったため、どの児童も意欲的に自信をもって作品を作り上げることができていました。
- ・ 主体的・対話的で深い学びを具現化する授業づくりに向けて、講師の先生を招いて校内研修を行うことにより、教職員全体で日々の授業に生かす技術と考え方についての理解を深めることができました。

## 4 課題

昨年に引き続き、新型コロナウイルス感染予防のため、地域の人材や教材の活用を計画する際に制約があったが、児童の主体的・対話的・深い学びの充実に向けた学習活動をどのように進めていくか、引き続き検討していく必要があると考えます。

## 1 目的

- ・ 児童が本音で表現し合い、それを互いに認め合う体験をすることで、自分や他者への気付きを深めさせ、人と共に生きる喜びやわが道を力強く歩む勇気をもたせる。

## 2 内容

### (1) 心の交流の推進と指導力の向上

異年齢で構成した「なかま」を核として、遊びを中心とした日常的な活動を継続し、よりよい人間関係の育成に努めました。新型コロナウイルス感染予防の関係で活動が制約された中、種目や参加方法等に工夫を加えながら、日頃行っているなかま活動の班を活用し、運動会や秋竹カーニバル、ウインターフェスティバルを行いました。

また、児童のより良い人間関係づくりや心の成長を促し、教職員の学級経営力の向上を図る目的で、上級教育カウンセラーである奥村桂子先生をお招きし、エンカウンター研修を行いました。合理的配慮を取り入れた授業やリフレーミングについて理解する授業を、児童に対して実際に行っていた中で、教職員も、児童に対する声のかけ方や、学級経営について学ぶことができ、大変好評でした。



【教職員によるエンカウンター研修】

### (2) 運動習慣の定着

なかま活動により、児童が外遊びの楽しさを実感し、2限放課や昼放課には、たくさんの児童が運動場に遊びに出ています。遊びの用具は、児童が自由に使えるように設置しており、休み時間にも活用され、児童の健康増や運動習慣の定着に役立っています。

## 3 評価

- ・ なかま活動や運動会、秋竹カーニバル、ウインターフェスティバルでは、リーダーを始めとする高学年を中心に児童全体で協力して活動することができました。高学年は、下の学年の思いを大切にしながら活動し、その中でリーダーとしての責任感を高め、思いやりの心や自尊感情・自己有用感等を育むことができました。また、低・中学年は高学年への感謝の気持ちをもち、やがては自分たちがこの活動の中心となるのだという自覚を育てることができていました。
- ・ 外遊びを通して運動の習慣を身につけることできるとともに、竹ぼっくりや竹馬・一輪車・フラフープ等の遊びの用具を使うことで、楽しく身体コントロールの能力を高めることができました。
- ・ エンカウンター研修の中で、合理的配慮を取り入れた授業やリフレーミングについて理解する授業を、講師の先生に実際に行っていた中で、教職員も、児童に対する声のかけ方や、学級経営について学ぶことができ、温かい雰囲気での学級づくり、人間関係づくりに生かすことができました。

## 4 課題

新型コロナウイルス感染予防により、児童の活動が制約される中、本校の伝統であるなかま活動の意義を再検証し、教職員全体で共通理解をして、従来の方法にとられない活動の方法を模索する必要があります。すべての児童が主体的に参加し、自己有用感を得られるために、活動の目的、在り方、異学年との関わり方等について、教職員間で十分に共通理解を図り、児童が獲得した力を有効に学校生活に活用していく方策を話し合っていく必要があると考えます。

## 『ふれあいを大切にした体験活動の充実』

秋竹小学校

### 1 目的

- ・ 一人一人が自らの役割を自覚し、積極的にその責任を果たす中で、協働することの喜びを味わわせます。
- ・ 自分の思いを表現することの心地よさを味わわせ、よりよい自己表現をしたいという意欲を高めるとともに、表現力の向上を目指します。
- ・ 学ぶことと自己の将来とのつながりを見通しながら、一人一人の社会的自立に向け、必要な資質・能力を育てることを通して、児童のキャリア発達を促します。

### 2 内容

#### (1) 心の表現・心の交流の推進

小中交流の芸術鑑賞会では、プロによる生の演奏を聴き、七宝北中学校生徒や宝小学校児童との交流を行いました。

#### (2) 自然とふれあう活動の推進

花壇等の環境整備を行い、学年の発達段階に応じて、1年生はアサガオ、2年生は野菜、4年生はヘチマ、6年生はジャガイモの栽培を行いました。また、PTA環境整備委員会の方が植えられた花壇の水やりに、委員会活動として取り組みました。

#### (3) 人とふれあう活動の推進

キャリア教育学習では、パティスリー・パリの社長である松田和也氏を招いて菓子製作(クレープ作り)の実習を行いました。また、その後に講話として、仕事についての講話をしていただきました。



【職業人から学ぶ～菓子製作実習～】

### 3 評価

- ・ 小中交流会を通して、プロによる生の演奏を聴くことは、感受性豊かな小学生にとって、音楽を愛でる心を育むための貴重な機会となりました。宝小学校児童や七宝北中学校生徒と交流することを通して、中学校進学に対して前向きな気持ちをもつことができました。
- ・ 栽培活動を通して自然を慈しむ気持ちを高め、自然の恵みや生命の不思議を体験することができました。また、育てた野菜を収穫する喜びを味わうこともできました。
- ・ 専門的な知識や技術をもっている職業人の講話を聴くことで、世の中で働くということの楽しさややりがいについて知ることができました。実際の体験を交えて話してくださったので、児童にとっても身近な話としてとらえやすく、自分の将来について考えるきっかけとなりました。

### 4 課題

小中交流会は新型コロナウイルス感染予防のため、2年連続で演奏会の鑑賞のみとなっています。児童が中学校での生活に向けて目標をもつことができる活動を今後も考えていく必要があります。

また、キャリア教育学習については、体験し、話を聞いたことをどのように生かしていくかを検討していく必要があります。